

2016年度「地域の姿と課題Ⅰ」

テーマ「指定廃棄物の行方」

2016.6.30

宇都宮大学陽東キャンパス331教室

塩谷町役場 総務課

指定廃棄物処分場対策班長 星 育 男

① 塩谷町紹介

塩谷町の面積は176.06 k m²で、約65%が山林原野、東西18km、南北21kmの三角形をなし、栃木県全面積の約2.76%にあたります。

交通は東北自動車矢板IC・上河内SICから約5km、町の中央を東西に国道461号線と南北に主要地方道藤原宇都宮線が交差して、東に矢板市・大田原市、西に鬼怒川温泉・日光の観光地、南に宇都宮市、北に塩原温泉・那須温泉の観光地をひかえており、県北の交通の要所となっています。

町の北部は、日光国立公園の一部で活火山の高原山（たかはらさん・たかはらやま）で、林産資源に富み、河川はいずれも一級河川である荒川（東側）と鬼怒川（西側）が町の両側を囲みながら南流し、中部から南部にかけては肥沃な農業地帯となっています。

土地の最も高いところは、町の最北端高原地区にある釈迦ヶ岳（高原山の最高峰）の海拔1794.9mで、最も低いところは、肘内地区の海拔181mです。



町章



シンボルキャラクター
ゆりぴー



町花
やまゆり



町鳥
やませみ



町木
ひのき



② 塩谷町の現状

平成28年7月30日 午前10時、青天の霹靂ともいふべき、突然の井上環境副大臣の塩谷町訪問。そして告げられたのは、塩谷町上寺島の寺島入国有林の一部が放射性指定廃棄物最終処分場の詳細調査候補地として選定された事でした。

この日を境として塩谷町を取り巻く状況は一変しました。報道陣は詰めかけこんな田舎町にヘリコプターが飛び交い、町始まって以来の騒ぎとなりました。くしくもそれが塩谷町が誕生してから50年を迎える記念すべき年であったことは偶然のこととはいえ、町民の心の中に深くいつまでも残る思い出となったことは間違いありません。



正面の川の向こう側が候補地



候補地

候補地のすぐ隣を西荒川の清流が流れています

町民はその日から、詳細調査候補地の『**白紙撤回**』を求め運動を始めました。そして、町の至る所にその姿勢が示された看板が設置されました。それらの力が『**塩谷町民指定廃棄物最終処分場反対同盟会**』という形になり、現在、白紙撤回に向けた住民運動を行っています。

それらの動きを受けて、町も『**塩谷町の自然を守るためには建設反対**』『**詳細調査断固反対**』という態度を表明し、塩谷町のこの自然を守り、子々孫々の代まで自然豊かで、自然と共存する塩谷町であるように**町民一丸となって運動を行っています。**



反対同盟会の集会の様子



宇都宮市での1,000人デモの様子



『いんね』は『いない』の意味です

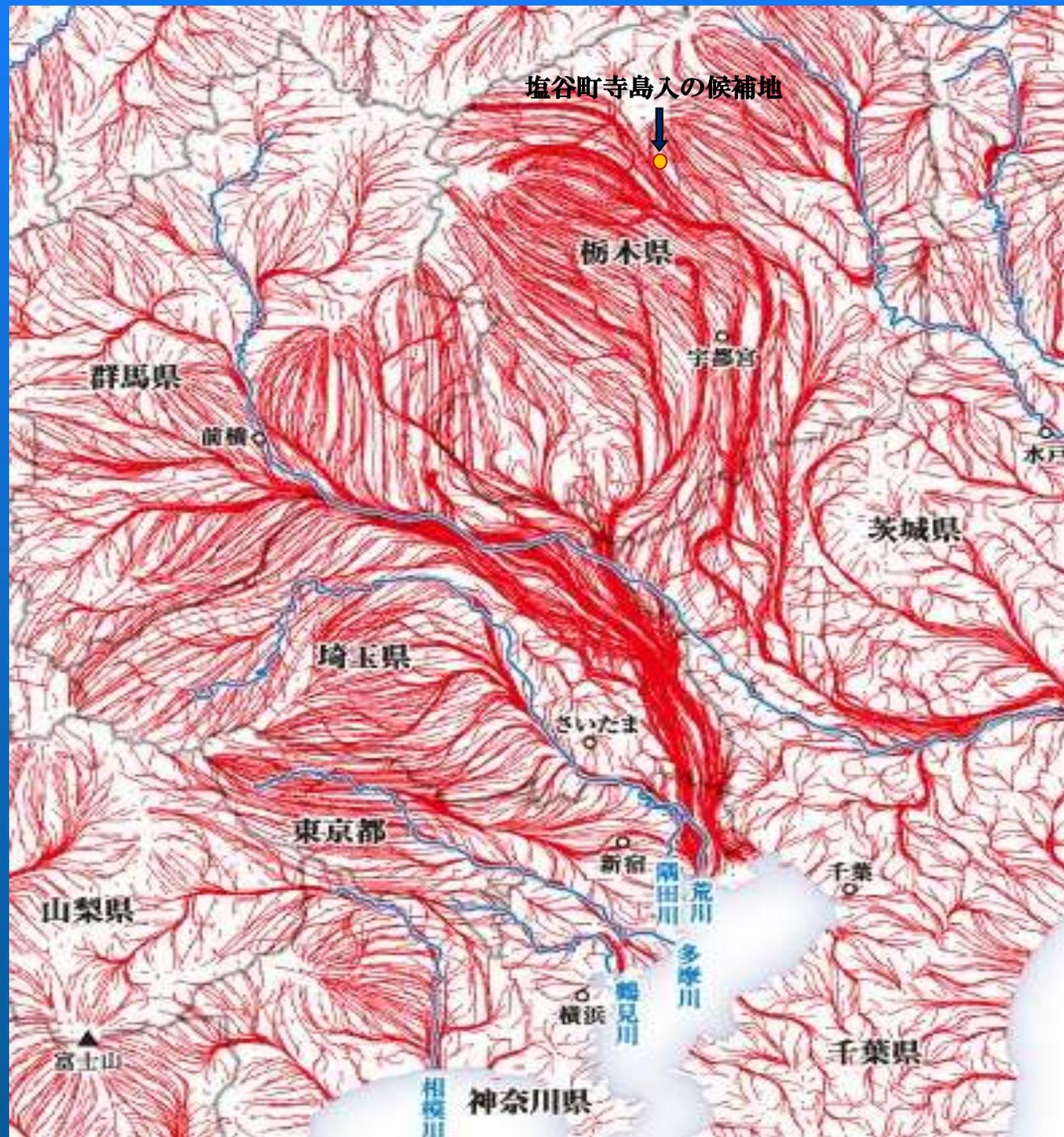


個性豊かな看板がたくさんあります

③ 塩谷町の環境（水）に対する思い、考え

塩谷町は太平洋へ注ぐ那珂川の源流の町として、また、東京江戸川に向かう地下水脈の源の町として、これまで幾度の開発計画と戦いながら水を守ってきました。

塩谷町の豊富な水を生み出すのは町の北部にそびえ立つ高原山（たかはらやま・たかはらさん）です。ここに降った雨が長い年月をかけて吹き出しているのが、全国名水百選に認定されている『尚仁沢湧水（しょうじんざわゆうすい）』で、単独の湧出口としては日本一の湧水量があると言われ、日量65,000トンの水を那珂川水系荒川（※東京都の荒川とは違う荒川です）と利根川水系鬼怒川に注いでいます。



地上の川とは違い、
地下水は候補地から
東京へと向かって流
れていきます。

これらの水を守るために塩谷町と町民はこれまでいくつもの開発計画を阻止してきました。その一つが林野庁との戦いでした。ブナの原生林を皆伐し、スギを植栽する計画でしたが、天然林が豊かな水を生むことを知っている町民はそれを阻止しました。

次に待っていたのが林野を切り開き鉄道用の敷砂利を採る計画でした。これは相手が民間企業であったため苦労もありましたが、どうにか食い止めることができました。町民は山が切り開かれることによって清らかな水を守ることができないことを知っていたからです。

NO.1 ブナ天然林の伐採事業計画

1979年、高原山南山麓の国有林面積23haを1989年度までに伐採しようという計画が、矢板営林署（現塩那森林管理署）で持ち上がりました。そこは、塩谷町に残るブナ・ミズナラ等の唯一の天然林で、樹齢100年を超えるものもありました。

塩谷町では当時の町長が中心となって「できるだけ天然林は残しておきたい」と営林署に再三にわたり要望書を提出していましたが、「付近の林業関係者の働く場を与えるため」との営林署の考えで、この工事は1982年5月に着工されました。1982年11月にこの工事を阻止するために高原山の自然を守る会が発足し、この計画を阻止しようと約700人の賛同者が集まりました。

1983年1月16日に、中心メンバー20人で現地調査を行ったところ、ブナ、ミズナラなどが丸太となって積まれている状況が確認されました。そして、1983年1月23日に当会を設立し、翌年度以降の工事中止を営林署に求めました。結果、1985年度でその伐採を中止することができました。



町民による現地調査の様子



当時の伐採作業の様子

NO.2 大名沢（おおなざわ）の採石採取計画

1995年、高原山南山麓の大名沢周辺の国有林約9.5haから、岩石を10年間採掘し、最初の2年間は1日当たりダンプ70台、3年目からは大名沢にプラントを建設し1日150台分を搬出し、線路の敷石や建設用骨材に使用するという計画が、東京の総合建設会社で持ち上がりました。これは、林野庁が国有林事業の赤字改善を目的とした土石販売促進プロジェクトによる収益活動の一環で、事業開始には、地元住民、塩谷町、栃木県の同意と矢板営林署長の許可が必要なものでした。計画地は、ヒノキの原生林のほかモミ、ツガなどの天然林が群生し、県鳥のオオルリの営巣地でもあり、それら生態系の破壊、そしてダンプ走行による排ガス・粉塵・騒音被害など環境破壊は明らかといえました。

このことから、活動を休止していた「高原山の自然を守る会」を、1995年12月10日に会員493人の元で再結成し、反対運動を展開しました。結果、1996年2月に当時の塩谷町長が「計画には同意できない」という考えを表明したことで、実質的な中止となりました。



国会議員による現地調査の様子



高原山の自然を守る会設立総会の様子

NO.3 指定廃棄物最終処分場建設計画（今回の計画）

そして、今回の指定廃棄物処分場の問題です。自然豊かな山奥に焼却炉付きの廃棄物処理場を造り、そこに放射能を含む廃棄物、いわゆる『指定廃棄物』を集約しようとしています。地中にコンクリートの部屋を造り埋め込むことになりましたが、その量を減らすために、燃えるものは焼却により減容することです。焼却が終わればその焼却炉も解体し現地に埋め込むとの計画です。焼却炉はバグフィルターにより放射性物質の飛散を防止するので安全だと言っていますが、バグフィルターの目は荒いため、ある程度の目詰まりをするまでは放射性物質は通り抜けてしまいます。そういうデータも隠蔽されている可能性があります。

大気中に放出された放射性物質は風に乗りどこまで飛んでいくかわかりません。風がなくても候補地周辺の谷や溪谷を伝い下流域に流れていくでしょう。

そして、現地は河川に隣接しており、敷地内には湧水もあります。工事をすれば多くの地下水が湧き出し、現在の福島第一原発の現場と同じように地下水の処理に苦勞することが目に見えています。水に弱いとされるコンクリートが何年持つのでしょうか。ちなみにここに持ち込まれようとしている放射性物質は半減するまでに130年以上かかることが予想されます。このような難問山積の場所が適地といえるのでしょうか。

ここが指定廃棄物最終処分場詳細調査候補地に選定されたことを塩谷町民は納得できません。



川の左側が候補地



施設設置イメージ図

塩谷町民は自然を代償にして町が豊かになることより、遠い昔からこの塩谷町に守られてきた自然を愛し、そこから流れ出る水を守ってきました。その行動は下流域の住民の方々への、源流域（上流）に住む住民としての気遣いであり、町は裕福ではないかもしれないが、自分たちの心を裕福にするバロメーターなっているのです。

そうして守ってきた水は、塩谷町の基幹産業である農業を盛んにし、おいしいお米や、花持ちの良いスプレー菊、そして味わいのある野菜を生んでいます。

水産業も盛んになり、この水を使った養魚場では新鮮なイワナ・ヤマメが育ち、その加工品も町の特産品になりつつあります。東古屋湖はトラウト系とヘラブナの釣りのメッカであり、東北・関西方面からも釣り人が訪れる盛況ぶりです。特にトラウト系は80センチを超える大物に会えることもあり、関東一円では大物が釣れる場所として人気のある釣り場となっています。

製造業においては、全国名水百選の尚仁沢湧水（しょうじんざわゆうすい）を使用したミネラルウォーター製造会社の水は、東京の大手のビルの公式飲料として採用され、そのおいしさを首都圏の多くの方々に理解してもらっているところです。

このように塩谷町は高原山が育む良質の水を宝にまちづくりを進めており、この水を汚されることは町の存亡に関わるものなのです。

だから、指定廃棄物の最終処分場を受け入れるわけにはいかないのです。

それは町民のためでもあります。塩谷町から発するすべての水に恩恵を受けている下流域の人々、首都圏の人々のためでもあるのです。

ここに処分場を造らせないというのは決して塩谷町民のエゴではないことをご理解ください。

④ なぜ塩谷町民が納得できないのか

○ 責任者である国の説明がありませんでした

塩谷町に選定になる前は、矢板市が候補地として選定されました。しかし、矢板市民への説明が十分でなかったとの反省から、環境省は候補地選定を白紙撤回しました。

今回、塩谷町を選定するにあたって町民への十分な説明がありませんでした。ひとつ変わったことは、県内25市長の首長を集めて会議を開催しただけです。

首長に説明したことが町民への説明になるのでしょうか。

矢板市の選定で起こした同じミスを繰り返しているため塩谷町民は納得できないのです。

○ 選定作業のプロセスがめちゃくちゃです

環境省は塩谷町に指定廃棄物最終処分場詳細調査候補地の詳細調査候補地を選定した後に、栃木県民に対して「環境省と考える指定廃棄物の課題解決に向けたフォーラム」を開催しています。

本来であればこのようなフォーラムを候補地選定の前に実施し、県民の指定廃棄物に対する知識や情報を共有して、栃木県としての課題であるという認識を深めるべきでありました。

その上で、指定廃棄物の処分について、栃木県においてはどのように処分をしていくのかを県民に開かれた会議の中で議論すべきであったのではないのでしょうか。

指定廃棄物最終処分場問題の解決方法

一般論

課題解決に向けたフォーラム
(県民との情報共有)

↓ 県民合意あり

市町村長による協議
(栃木県の選定手法の話し合い)

↓ 県民合意あり

選定手法についてのパブリックコメントの実施
(県民との意見摺り合わせ)

↓ 県民合意あり

栃木県における選定手法の決定
(県民への情報提供)

↓ 県民合意あり

候補地選定結果の公表
(県民への情報提供)

塩谷町

市町村長会議の実施
(選定手法の説明)

↓ 県民合意なし

選定手法の決定
(環境省)

↓ 県民合意なし

候補地選定結果の公表
(環境省)

矢板市

選定手法の決定
(環境省)

↓ 県民合意なし

候補地選定結果の公表
(環境省)

白紙撤回!!

県民の合意なきところで議論された内容は納得できるわけがない。
行政の効率性の都合で進めた結果に県民が納得するはずがない。
ここが、今回の住民コンセンサスを得る上での最大のミスである。

⑤ ではどのように解決すべきなのか

○ 現状の一時保管場所を強固化すべきです

環境省や県は指定廃棄物の一時保管場所の脆弱性や危険性を叫び、早く県内1カ所に整備することに躍起になっています。

しかし、さきほど説明したように、栃木県民も塩谷町民も何も納得していないままにこの問題が解決に進んでいくことは考えられません。解決までに時間がかかります。

今、やるべきことは環境省や栃木県が言っている一時保管場所の安全安心を確保するため保管場所の強固化を図ることではないでしょうか。

この現状の中で県民の不安や負担を取り除くためにどれを一番最初にやるのか、環境省が栃木県があるいは市町村が説明責任を果たして進めていくべきではないでしょうか。

その事に気がつかない限りこの問題は解決出来ないでしょう。

⑥ 塩谷町が取り組むもの

○ 指定廃棄物の放射能濃度の再測定を実施します

現在、環境省から一時保管場所で保管している指定廃棄物の再測定の実施依頼がきております。塩谷町においては町民の皆様への説明責任（どれだけの放射能濃度があるか）を果たすために再測定を実施していただくこととしました。

また、それに併せて町民の不安を払拭するために一時保管場所の強固化の対策を講じることも検討しております。

具体には再測定のために掘り起こした指定廃棄物をコンクリートボックスに詰め替えて保管することを考えています。

《改修前》



塩谷町町有地内での遮へいシートによる保管状況

《改修後》



千葉県松戸市クリーンセンターのコンクリートボックスでの保管状況

そのメリットは

- 短期間の保管であれば、丈夫で頑丈なため災害等により吹き飛んだり露出したりする心配が少ない。
- コンクリートボックスには監視用の窓がついており、定期的に放射能濃度を測定することができる。（減衰状況を把握できる。）
- 密閉されることから腐敗物が漏れる可能性が少ない。（現在の保管方法では腐敗し液化したものが地中に染み込む恐れがある。）
- 将来的に状況に応じて、運搬（移動）することが容易である。

⑦ 解決に向けて、今、やるべきこと

今回の指定廃棄物最終処分場詳細調査候補地の選定については、先に説明したように県民合意、町民合意を得ずに進めてきた、民意なき選定です。

今、やらなければならないことは議論を原点に戻すことです。

国民・県民・町民に説明責任を果たし、指定廃棄物の情報をみんなで共有し、国や県の問題として考えるべきです。

決して、塩谷町だけが考える問題ではないと思っています。

この問題で苦しんでいるのは末端の住民です。政治や行政は住民を救うためにあるものです。一部の人間だけが苦しむような不公平な社会はあってはなりません。

少なくとも今、指定廃棄物問題において求められているのは、みんなで考える時間と、みんなで行動する勇気ではないでしょうか。

みなさん是非一度、
自然豊かな塩谷町においでください。
お待ちしております。

ご静聴ありがとうございました。